

## 雲仙岳の火山活動解説資料（平成 31 年 1 月）

福岡管区气象台

地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はありませんが、2010 年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ 1～2 km を震源とする火山性地震が時々発生していますので、今後の火山活動に留意してください。  
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2-①③⑤）

白色の噴気が最高で噴気孔上 20m（2018 年 12 月：100m）まで上がりました。

#### ・地震や微動の発生状況（図 2-②④⑥、図 3）

火山性地震の月回数は 25 回（2018 年 12 月：24 回）と少ない状態で経過しました。このうち震源が求まった火山性地震は 22 回で、震源は主に普賢岳から平成新山直下の深さ 1～2 km に分布しました。

2010 年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ 1～2 km を震源とする火山性地震が時々発生しています。

火山性微動は 2006 年 11 月以降、観測されていません。

#### ・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GNSS<sup>1)</sup> 連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。



図 1 雲仙岳 平成新山の状況（1 月 27 日、野岳監視カメラによる）

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ ([https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 31 年 2 月分）は平成 31 年 3 月 8 日に発表する予定です。この資料は気象庁のほか、国土地理院、九州地方整備局雲仙復興事務所（長崎県経由）、九州大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

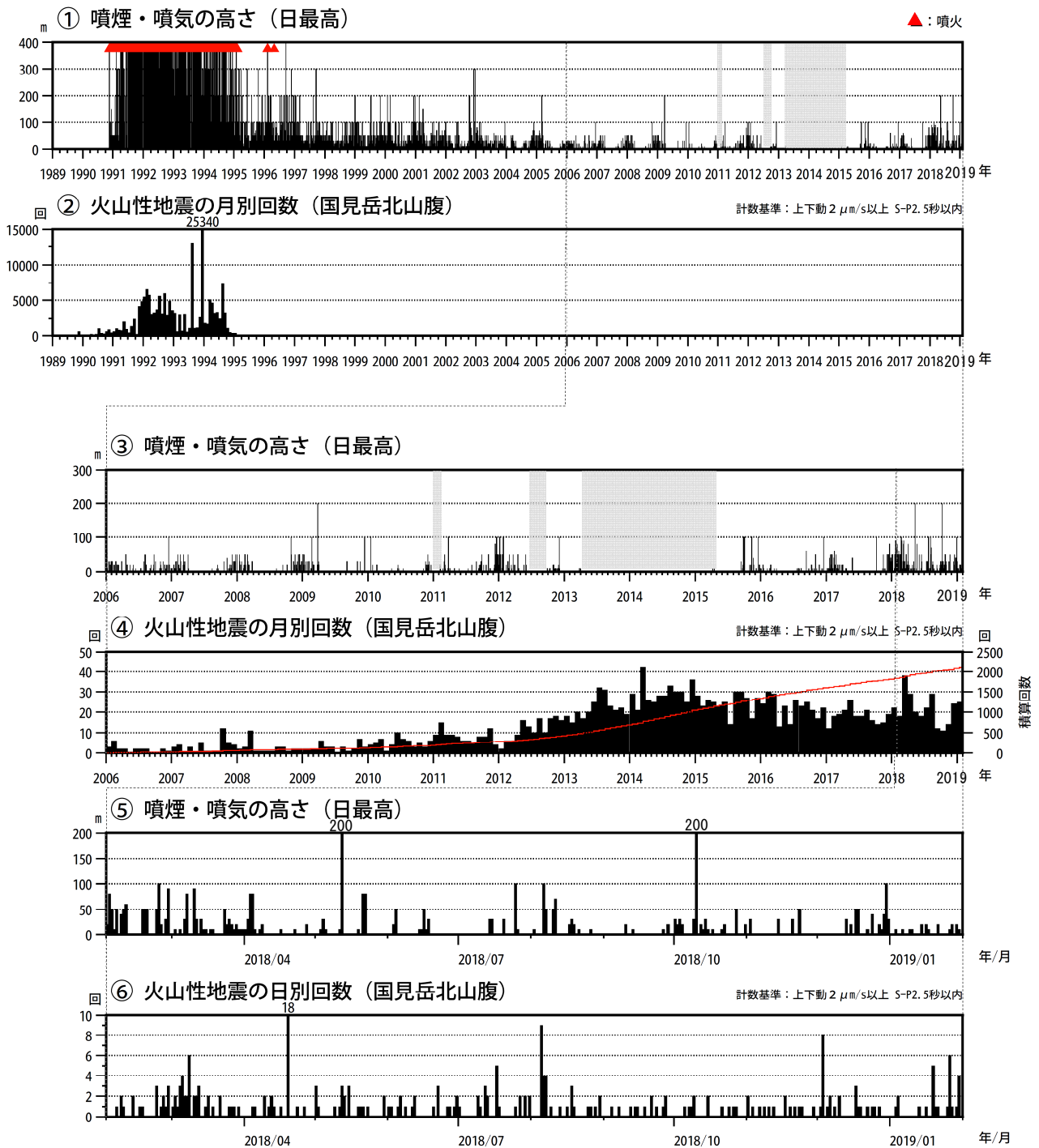


図2 雲仙岳 火山活動経過図（1989年1月～2019年1月）

< 1月の状況 >

- ・ 白色の噴気が最高で噴気孔上20m（2018年12月：100m）まで上がりました。
- ・ 火山性地震の月回数は25回（2018年12月：24回）と少ない状態で経過しました。
- ・ 2010年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ1～2kmを震源とする火山性地震が時々発生しています。

火山性地震の回数については、2012年8月31日までは矢岳南西山腹の計数基準（上下動5 μm/s以上）で計数しています。

灰色部分は監視カメラの障害による欠測を示しています。

④の赤線は地震回数の積算を示しています。

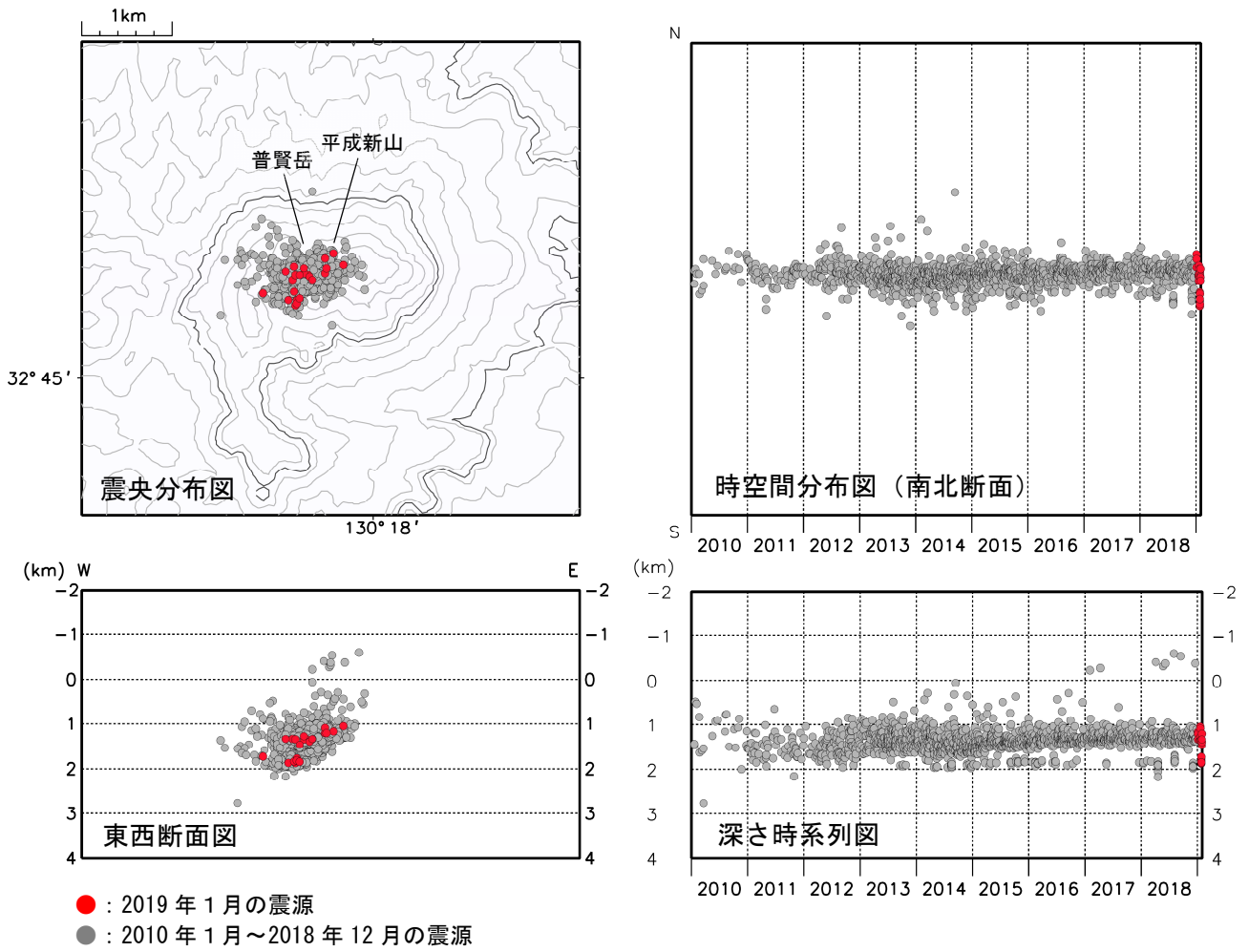


図 3-1 雲仙岳 震源分布図 (普賢岳・平成新山付近の地震) (2010 年 1 月～2019 年 1 月)

< 1 月の状況 >

震源が求まった火山性地震は 22 回で、震源は普賢岳から平成新山直下の深さ 1 ～ 2 km に分布しました。

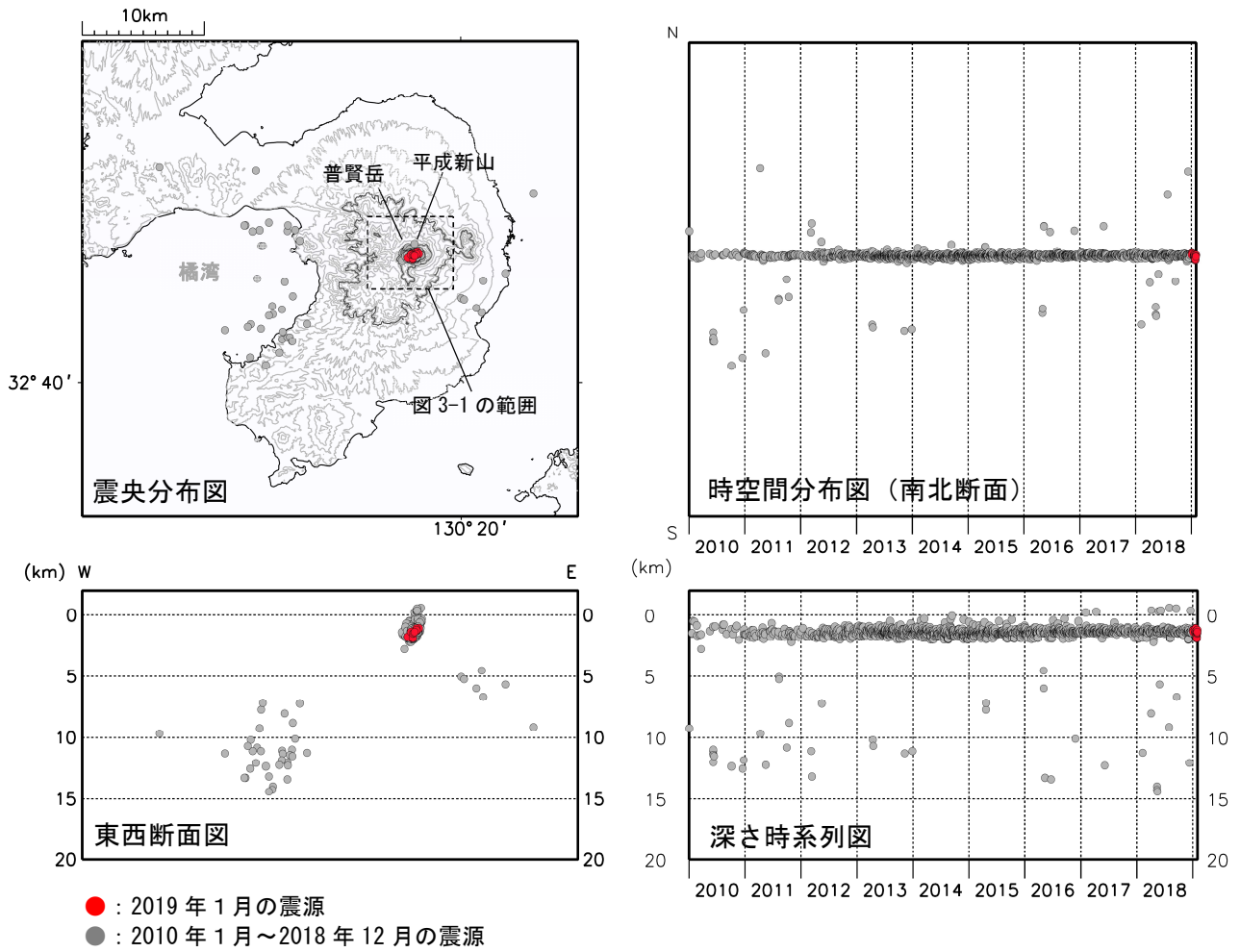


図 3-2 雲仙岳 震源分布図（広域）（2010 年 1 月～2019 年 1 月）

< 1 月の状況 >

橘湾付近に求まる震源はありませんでした。

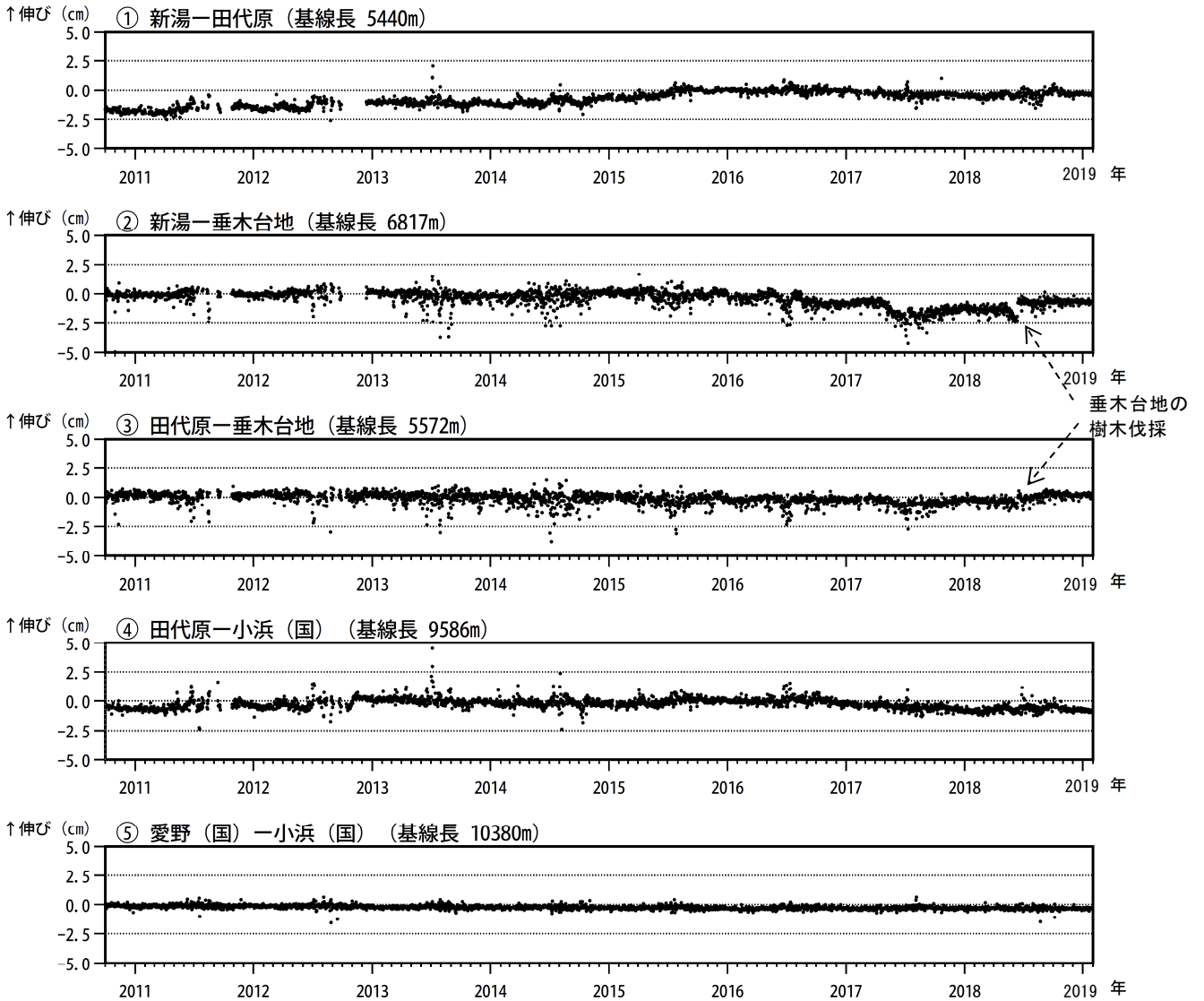


図 4 雲仙岳 GNSS連続観測による基線長変化（2010 年 10 月～2019 年 1 月）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

これらの基線は図 5 の①～⑤に対応しています。

基線⑤については、国土地理院の解析結果（F3 解及び R3 解）を使用しています。

基線の空白部分は欠測を示しています。

2016 年 1 月以降のデータについては、解析方法を変更しています。

2016 年 4 月 16 日以降の基線長は、平成 28 年（2016 年）熊本地震の影響による変動が大きかったため、この地震に伴うステップを補正しています。

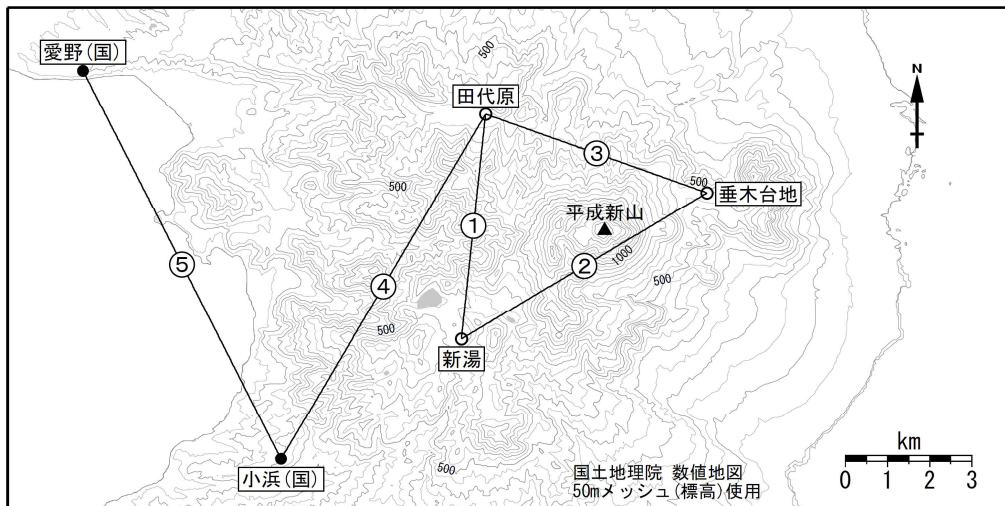


図 5 雲仙岳 GNSS 連続観測点と基線番号

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国)：国土地理院

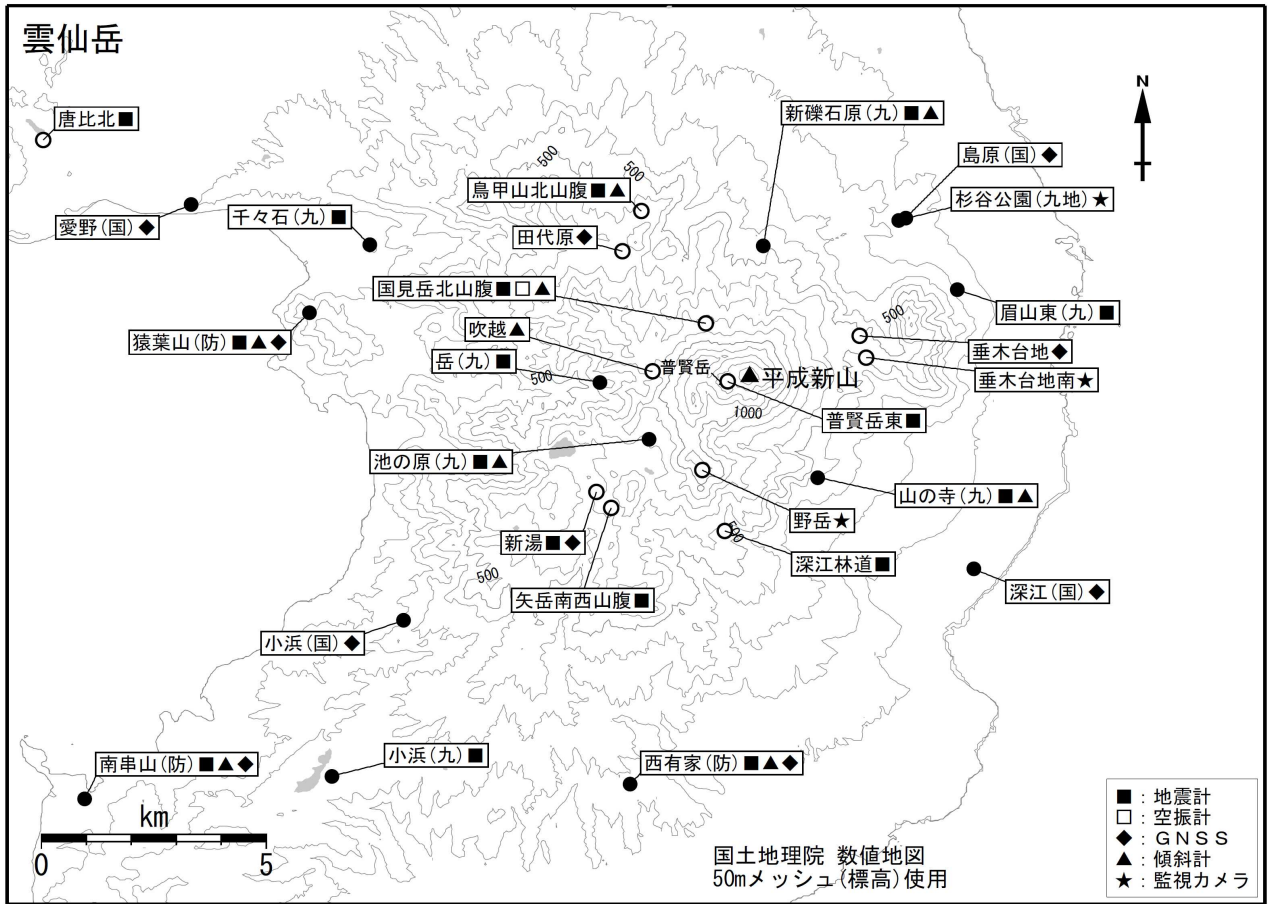


図 6 雲仙岳 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国) : 国土地理院、(九地) : 九州地方整備局、(九) : 九州大学、(防) : 防災科学技術研究所